徒然草（大事を思ひ立たん人は）＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

大事を思ひ立たん人は、去りがたく、①心にかからんことの本意をA遂げずして、さながら捨つべきなり。しばし、このことと果てて、同じくはかのこと沙汰しおきて、しかしかのこと、人の嘲りやあらん、行く末難なくしたためまうけて、年ごろもあればこそあれ、そのこと待たん、ほどあらじ、もの騒がしからぬやうになど思はんには、②えさらぬことのみいとど重なりて、ことの尽くる限りもなく、思ひ立つ日もあるべからず。おほやう、人を見るに、少し心あるきはは、みなこのあらましにてぞ一期はC過ぐめる。

近き火などに逃ぐる人は、「しばし。」とや言ふ。身を助けんとすれば、恥をもD顧みず、財をも捨てて逃れ去るぞかし。③命は人を待つものかは。無常の来ることは、水火の攻むるよりも速やかに、逃れがたきものを、そのとき、E老いたる親、いときなき子、君の恩、人の情け、捨てがたしとて捨てざらんや。

問一　二重傍線部A～Eの助動詞の、活用する行、活用の仕方、活用形を、それぞれ、次の例に倣って答えなさい。

（例）マ行下二段活用連体形

問二　傍線部①～③を現代語訳しなさい。

問三　波線部「少し心あるきは」に対して、「本当に心あるきは」はどのように行動すると作者は考えていると思われるか。分かりやすく説明しなさい。

問四　［　　］で囲った「このあらまし」とは、具体的にはどういうことか、十五字以内で答えなさい。

問五　本文の要旨として、最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　死はいつやってくるか、誰にも分からないから、できることからどんどんやらなければならない。

イ　最後にいちばん大切なものは、人間関係であるから、何を置いてもそれを優先させなければならない。

ウ　出家を思い立ったら、何事であっても投げ捨てて、速やかに出家しなければならない。

エ　仏道に入ることはきっかけが必要であるから、辛抱強く待っているのがよい。

オ　すべてのことに見通しをつけるぐらいでなければ、なかなか出家は成功しない。

問五	問四	問三	問二			問一			学年
			③	②	①	E	C	A	
									組
									番号
									氏名
							D	B	
									得点

徒然草（大事を思ひ立たん人は）＊＊

〔出題の意図と留意点〕

☆解答例と配点

問一　A　ガ行下二段活用未然形　B　ラ行変格活用已然形
C　ガ行上二段活用終止形
D　マ行上一段活用未然形　E　ヤ行下二段活用連用形
〈3点×5〉

問二　①心にかかっていることのもともとの意志
②避けられないことばかりひどく重なって
③命は人を待ってくれるだろうか。（いや待ちはしない。）
〈5点×3〉

問三　出家を思い立ったら、すぐに実行に移す。〈5点〉

問四　出家しようという心積もり。（13字）〈5点〉

問五　ウ　〈10点〉

計50点